

MMU

特集

ムサシノアート キャンパス 開拓

feature
musashino art
university
takanodai campus

ムサシノの「いま」を知る、
わたしたちの広報紙

mauleaf
30
2022.10

食堂にパン屋、コンビニと、食事の選択肢が豊富なムサビ。ちょっと迷ったときには、どこで食べるか、チャートを頼りにしてみてもいいだろうか？

YES NO 今日どこで食べる？

今日は第一食堂！

あなたは整った環境で快適に食事を楽しみたいみたい。日替わりランチも豊富で選び放題！吹き抜けて解放感！近くにはセブンイレブンと世界堂！第一食堂（鷹ホ）はいろんなニーズにこたえてくれます。

今日は第二食堂！

作業欲にあふれるあなたには、地下で集中できる第二食堂（12地下）がピッタリかも。たまには休憩でアイスを頼むのもアリ。第一食堂との料理の食べ比べも楽しい。

今日はエミュー！

ムサビ唯一のパン屋さん。甘いものから辛いものまで！何気に飲食スペースにレンジとポットが備えてあるところがいいよね。

決断力のあるあなたはそのまま突き進もう！

数多の選択肢がある中で決断できるあなたにはお気に入りの場所があるみたい。ぜひお気に入りの場所で食事をしよう。気分転換したくなったときにはこの占いがあなたの助けとなるはず。

START!

今日どこで食べるか決まっている

今日は天気いいな～

弁当派

大人数？

キャッシュレス決済

今日はゼロスペ！

あなたはリラックスできる場所を求めているみたい。好きな姿勢でくつろぎながら食べるのもよし、授業を受けるのもよし、談笑するのもよし。自分なりにくつろぎを満喫しよう！

今日はピクニック！

今日はピクニック日和！ムサビにある広い芝生で食事をしよう。そのまま昼寝もありかも。

くつろぎたい

パスタ派

【求】コンセント

冷暖房完備

自然が好き

金欠

すみっことは落ち着く

レンチンしたい

飲み物持ってる？

太陽は敵

今すぐ食べたい

パンの気分かな～

作業もしたい

食後のアイスは別腹



特集

ムサビ キャンパス開拓

ムサビのキャンパス、十分に使いこなせていますか？
自分の学科棟以外にはあまり行く機会がなかったり、そもそもオンライン授業で登校自体が少なかったり、入構禁止期間のせいで入学後のキャンパス見学ができなかった学年も....
でもせっかくムサビに入ったのだから、もっとキャンパスを活用したい！そんな思いから、意外と知らなかったあんな場所やこんな場所を、編集部が開拓してみました。

mauleaf 30

2022.10

TITLE	PAGE
表紙	
表2	今日どこで食べる？ まとめ＝海田実来
目次	2
特集： ムサビ キャンパス開拓	鷹の台キャンパスおすすめエリア 取材・文＝郡司麻衣 4
	ムサビで聖地巡礼できちゃう！？ ロケ地のムサビ 取材・文＝ 箱崎愛華＋大川直人 6
	あなたの知らないムサビツアー ～まだ見ぬムサビの魅力を発見する～ 取材・文＝松本向日葵 8
	ゴミ転生物語 取材＝澤口千晶 文＝松本向日葵 10
	図書館とイメラの交流板！ 取材・文＝郡司麻衣 12
	サークル訪問（ねこ部） ムサビ生の癒やし“ムサ猫”とは？ 取材・文＝海田実来 14
	卒業生インタビュー 大人の背中 取材・文＝澤口千晶 16
	気になるあの子 清掃員さんは見た 取材・文＝奥田成美 18
	あとがき ムサビ語辞典 まとめ＝箱崎愛華 19
表3	ムサビをもっと快適に！ちょこっと豆知識 まとめ＝箱崎愛華 20
裏表紙	

mauleaf vol.30 2022年10月28日発行

発行 武蔵野美術大学 〒187-8505 東京都小平市小川町1-736 WEB： https://www.musabi.ac.jp/	編集ディレクション 酒井博基（d-land） 佐久間茜（d-land） 野村智子（d-land） アートディレクション 加藤賢策（LABORATORIES） デザイン 守谷めぐみ（LABORATORIES） 印刷・製本 株式会社アトミ	編集 『mauleaf』学生スタッフ 造形学部 油絵学科 奥田成美（4年） 視覚伝達デザイン学科 大川直人（1年） 松本向日葵（3年） 撮影 『mauleaf』学生スタッフ ※本誌掲載記事の無断転用を禁じます。	基礎デザイン学科 箱崎愛華（2年） デザイン情報学科 海田実来（1年） 郡司麻衣（3年） 澤口千晶（3年）
---	--	---	--



生き物に癒されよう

5B号館付近には日本画学科が飼育している鯉、孔雀などの生き物がいる。眺めて癒されるもよし、スケッチをするもよし。近くにはベンチもあって休憩するもよしな穴場。

通路から椅子たちをチラ見

この通路の窓から、ムサビの近代椅子コレクションの一部を眺めることができる。

ゴミストで素材を探そう

鷹の台ホールの近くにはいろいろなゴミが集まるゴミストックヤードがある。自由に持ち出してもよいので、制作に活かそうなものがあるか覗いてみるのもおもしろい。

自然豊かなはじっこ

行き止まりだが、木々が生い茂っていて落ち着ける。



どこかに猫が…？！

ムサビ鷹の台キャンパスには猫が住んでいる。見かけた日は1日中ハッピー！

芝生で青空を感じよう

天気の良い日は美術館前の芝生に寝転がって空を見上げるのがおすすめ。遮るものが何もないため視界いっぱいに空が広がり爽快。

木の実に舌を打つ

美術館前の広場には枇杷(びわ)の木が生えている。6月頃になると実をつけ、とても美味しい。

すてきな蒸壁を見上げる

2号館の壁には立派なグリーンカーテンが張られている。

美味しいパンの美味しい食べ方

晴れた日にここで買ったパンを芝生で食べるのがおすすめ。

芸術の芝生

いつの間にか大きな立体作品が現れ、消えていくことが多い10号館前の芝生。毎日通えば、おもしろい作品が見られるかも？

イメージライブラリーで鑑賞会

グループ視聴室で友達と映画鑑賞。お互い感想を言い合って刺激に。おすすめの映画があったらシェアしよう！

ゼロスペースでリラックス

9号館1階の「ゼロスペース」は、朝早く行くと空いている。家でできなかった2度寝をするのにピッタリ！

ここにもゴミスト！

実はここにも小さなゴミストックヤードがある。鷹の台ホールの隣では見つからなかった掘り出し物が見つかるかも？

文・イラスト=郡司麻衣(デザイン情報学科3年)

鷹の台キャンパス おすすめエリア

ムサビの鷹の台キャンパスには魅力的なスポットがたくさんあります。今回は、インスピレーションの刺激になるようなスポット、リラックスして次の創作のための力を蓄えられるようなスポットをご紹介します！

CM

集英社文庫 「ナツイチ2007」



実は私たちの普段よく見るCMにもムサビが使われているようです！シャープのCMから期間限定イベントのCM、お菓子会社のCMなど多様な領域で使われています。使用されているカット数は作品によって違いますが、それぞれの映像にムサビがとっても自然に溶け込んでいるため、集中して探さないと見逃してしまいうそうですね！



ネスレ キットカット 「リトルレター」

お菓子会社と映画作品がコラボして制作されたショートムービーで、受験会場として使用されていました。再現場所：正門

夏のイベントの広告用オリジナルストーリーにて。全シーンムサビで撮影されているようです。再現場所：7号館



某人気シャンプーブランドのCM。女性の外出シーンでムサビらしき場所が…。再現場所：7号館



某シンガーソングライターのファンの一である編集部員が個人的に撮影していた再現写真。再現場所：4号館・10号館・図書館前



超ベテラン有名ロックバンドのMVで、地下通路が地下鉄の通路として使用されています。再現場所：地下通路

ムサビで聖地

巡礼できちゃう！？

ロケ地のムサビ

2022年5月。とある有名な男性シンガーソングライターが、新曲のMVを動画投稿サイトにアップロードしました。そこで、その動画を視聴したムサビ生があることに気がきます。このMVに写っている場所、もしかしてうちの大学じゃないか…!? それを知ったムサビ生が、MV内のムサビであろう場所を特定して聖地巡礼していた——なんて話もあるそうです。ムサビ生として生活していると、有名人がうちの大学に来ていた！なんて噂を少しは耳にしたことがあるのではないのでしょうか。このページでは、MVに加えアニメや漫画などの聖地、ドラマや映画、CMのロケ地として使われているムサビを厳選して編集部員で再現してみました！もしかしたらいつも生活しているあの場所が聖地かも…？

取材・文＝箱崎愛華（基礎デザイン学科2年）・大川直人（視覚伝達デザイン学科1年）

アニメ「ハチミツとクローバー」

原作漫画とアニメ作品ともに舞台のモデルがムサビとなっており、建物の描写がリアルに再現されている。再現場所：中央広場



私たちが調査した中でムサビの登場回数が一番多かったのがアニメ、漫画です。今回再現したものの中には、美大受験の物語を描いた『ブルーピリオド』『口づけ／講談社』や、少女漫画家を目指す少女たちの戦いを描いた『HOPE』（すのぶけいこ／講談社）など、数々のアニメ、漫画作品にムサビが使用されているそうです。



映画 「マスタード・チョコレート」



美大を目指す女子高生の青春ストーリーを描いた作品のワンシーン。再現場所：第二食堂



こちらはあの有名刑事ドラマでのワンシーン。再現場所：正門前・第一食堂

ドラマや映画では大学正門や食堂をロケ地としている作品が多いようでした。特に第一食堂は天井が特徴的なので、見た人の印象に残りやすいのではないのでしょうか。ムサビが使用されていることを公表していない場合も多々あるようです。もしかすると今やっているあのドラマや映画にも、ムサビが使われているかも…。

機械室

安全なキャンパスライフを支えてくれる
2号館
地下機械室

2号館地下にある、機械室です。たくさんある扉の中は、普段は学生が入ることはできません。

ここは、ムサビの防災センターのような場所です。毎日24時間、16人の職員の方々が交代で私たちの学生生活を守ってくださっています。そのほかにも、ここではストーブや灯油タンクなどを借りることもできます。

中央機械室

電気室

なんと、南側キャンパスで使われる電気は、まずすべてここに送られてくるのです。

第3倉庫には、北側校舎で使用する静物台などが置いてあります。

第3倉庫

第5倉庫

第6倉庫は、ムサビの公演系のサークル、劇団むさびやepa、MKPの機材置き場になっていました。近年は中々公演できない状況でしたが、今年からは楽しみです。

第4倉庫にはみなさんも使ったであろう受験用に使用する製図板をつくっている、管理室の杉本さんもいらっしゃいました。感謝ですね。

第6倉庫

発電機室

発電機室には、供給される電気だけでは足りない分を賄うための発電機が3台あります。実はムサビでは発電もしているのです。

あなたの知らない

まだ見ぬムサビの魅力を発見する

ムサビ生のホームであるキャンパス。実は、皆さんの知らない場所がまだまだあるのです。今回、ムサビの職員の方々に協力いただき、普段は入れない「倉庫」と2号館地下の「機械室」取材しました。

取材・文 松本向日葵（視覚伝達デザイン学科3年）

第3倉庫

第5倉庫には、芸術祭関係のものがたくさん置いてあります。昨年の「電脳都市武蔵」も見えますね。

ムサビ生たちの創作・活動のバックヤード

中央機械室

中央機械室では、学内の空調やエレベーターの様子をすべて確認できたり、もし火事があった場合にはすぐにモニターに映し出されるようになっています。

第4倉庫

今回倉庫の取材にご協力いただいた、普段備品の管理をしている管理室の春日さん（上）と、教務チーム（当時）の荻原さん（左）です。ありがとうございました。

北側校舎 プレハブ倉庫

北側校舎にあるプレハブ倉庫。第3～6倉庫まであり、普段学生が入ることはできません。

第5倉庫

屋上

屋上にもご案内いただきました。屋上には、クーリングタワーという発電の際に発生した熱を冷却する装置があります。ムサビの周りには高い建物がないため、ペルーナドームなど、遠くの建物までよく見えました。

最後に紹介していたのは、雨水を再利用するための機械です。2号館の地下には雨水を溜める大きな空間がありました。機械室を案内してくださった施設管財チームの橋本さん、ありがとうございました。

ムサビツアー

ゴミは悩んだときの突破口

油絵学科2年 寺岡大統さん

普段はペインティングと立体、最近は映像作品もつくっています。ゴミを使って制作するときはインスタレーションが多いですね。ゴミストではないのですが、フリーマーケットというかボロ市のようなところで売っていたものから作品をつくれなかなと考えるなど、拾ったゴミから作品の発想を得るときもあります。あと最近は減ったのですが、作品を制作する手がかりにもなります。行き詰まったときにちょっとゴミを見つけて、逆にそのゴミをモチーフに立体作品をつくっています。よく使用する素材は、金属質のもので、もちろん自分でゼロからつくるといことがうまく行く場合も多いのですが、だんだん変にこなれてしまおうと自分の範囲でしかつくれなくなるのがどうしてもあって、ゴミはそういうときの突破口になります。そこがゴミから作品を制作する魅力ですね。私はあまりゴミをゴミだと思っていません。先ほど言ったようなボロ市もそうですが、掘り出し物を探しに行くような感じです。

ゴミから環境を考える

彫刻学科3年 高松彩華さん

私は彫刻学科のミクストメディアという工房に所属しており、様々な素材を扱い、組み合わせながらつくることが多いです。テーマについて、基本的には自分が普段思ったり、感じた感情や疑問・興味を追求するなどして、作品にしています。以前は本を読んでそのときに思ったことや受け取った印象を彫刻に私は勝手に読書感想彫刻と呼んでいます。していましたが、最近は環境問題や社会問題にも興味があり、現代社会が抱えている問題を提示するような作品も制作しています。素材となる「ゴミ」を選ぶ基準などはありませんが、基本私の制作スタイルが「テーマ・アイデア先行」なので、自分が表現したいもの・つくりたいものを実現できそうな、適しているような素材を選ぶことが多いと思います。今年多く使用しているのはセラミックですね。今後は、「ゴミスト」から拾ったモルタル・コンクリートで、自分の感情を表現した作品を制作予定です。

SDGsという言葉をたくさん聞くこの世で、環境に悪いものは必然的に廃れていくと思います。ゴミから作品を制作する魅力は、古着を着るのと同じように、前の持ち主やそのバックグラウンドも含めて視えたり、想像できたりすることです。また、ゴミを扱うことで社会的な意義も組み込まれると考えています。

ゴミはイメージを膨らませるきっかけ

ゴミ転生物語

ムサビ生にとっては慣れ親しんだ場所、「ゴミストックヤード」、略して「ゴミスト」。作品制作の過程などで出たゴミを捨てる場所とされているゴミストですが、実はそのゴミを新たな姿に生まれ変わらせている人もいます。今回はゴミストを活用して作品を制作しているムサビ生3人にお話を伺いました。

取材=澤口千晶(デザイン情報学科3年) 文=松本向日美(視覚伝達デザイン学科3年)

ムサビ生のゴミ捨て場の使い方

油絵学科2年 柏木健作さん

生ゴミの写真を描いたり、使い古した段ボールなどを使って、その支持体、モチーフにしか出せない表現ができたらいなと思っていて、普段からゴミを使って制作しています。私の好きな素材は段ボールで、あとは木材、木製パネルなど、自分の好きな支持体を選んで使います。「ゴミ」というのは「捨てられるもの」や「使われなくなったもの」と思われがちですが、それを人などいろいろなものに置き換えると、イメージを膨らませるきっかけとなつて、自身の作品の制作に繋がると思っています。だからゴミはイメージを膨らませるためには結構重要なものだなと考えています。それがゴミから作品を制作する魅力です。



みんな〜!!!
「○○」読んで!!!
「○○」が好きな人
△△も好きかも
自分も好き
や仲間
友達
みんな
24時間
空けて!

おすめめの面集
紹介し合うコーナー
SNS時代にあえてローカルな
交流もしてみない?

図書館とイメラの交流板!

図書館やイメージライブラリーには、寄せ書きコーナーや映画をおすすめするボードなど、学生同士の交流が盛んになるような交流ツールが用意されています。設置した経緯や、図書館やイメージライブラリーを学生にどう利用してほしいかなど、美術・図書チーム図書担当チームリーダーの畠山さんに様々なお話を伺いました。

取材・文＝郡司麻衣(デザイン情報学科3年)

図書館寄せ書きコーナーのはじまり

「図書館の寄せ書きコーナーが始まったのはいつですか?」

2019年です。図書館を、ただ、本を読みにくる場ではなくて、何かやっているかも、何か聞いてもらえるかも、という場にしていきたいと思っています。そのきっかけづくりで、寄せ書きのホワイトボードを設置しました。読んだ本の感想やお薦めをシェアしてほしいというのが主な意図です。また、どこにでも本好きはいるし、何か企画したいという人もいると思っています。ですが、学生は意外と何も提案してこないで、寄せ書きコーナーで学生が考えていることを知りたいというのがあります。

コメントには目を通してありますか?

目を通してはいますし、返事を書くこともありますが、これは必要なと思うことは、必ずできること、できないことを判別してから、お金がかからない場合はやります。人件費やハードとしてのランニングコストなどを考えると、すべての要望に応えることはできないのですが、実現するかどうかは別として、大学全体に関係することなので、館長などにそういう意見がありますよ、と伝えていきます。そこから先は大学の判断です。

どんなコメントが書かれていますか?

学生同士のやり取りで、「小説は何かいいと思う?」「私は最近○○を読んでよかった」と書かれていたりします。本を媒介として、学生同士の交流が盛んになっていてほしいですね。ある時、近代以降

の短歌や俳句の関係を調べてほしい、と書かれていました。文学の分類だと買うのは厳しいなと考えていたのですが、言語芸術という意味においては、画家が絵に題名をつけるように、プランナーがCMのキャッチコピーを書くように、言語は芸術分野にも大変重要で、言語芸術をもう少し増やしてもいいと考え直しました。後日、コメントを書いた学生に対して「少し時間をください。検討します」と返事を書いたところ、「嬉しいです」と書いてありました。そういった学生と館との交流もホワイトボードでは生まれています。

寄せ書きには「この本が欲しい」という要望が多く見られるように思います。

ムサビの図書館は一般的に図書館では「本を中心に所蔵しており、そのポリシーが強いです」。一方で、文学が全然ないとか、小説はどうして買わないんだ、という声もあります。美術大学の図書館としては仕方ない偏りなのですが、なかなか理解してもらえないところですね。それでもムサビ生はTAC※のほかの5つの大学で自分の大学と同じように本を借りられるので、ぜひその分野が充実した図書館から借りてもらえればと思います。

イメラの催しの今と昔

イメージライブラリーのおすすめ映画共有ボードはいつできましたか?

図書館・イメラのあれこれ

「ほかにどのような試みをおこなっていますか?」

図書館では、コロナ禍で休館せざるを得なかった時期には、郵送貸し出しもしました。他大学と比べても比較的早い対応でした。あと、なるべく図書館を開けるという努力をしています。そうしたら、ホワイトボードに「開けてくれてありがとう」と書いてくれた人がいました。ときどき感謝の言葉を書いてくれる学生がいるので、そういうのを見ると、力になります。でも、実際に書き込まれるのは文句も多いですが笑。

学生への還元として、亡くなった教員の遺族から寄贈された本を、承諾を得て学生に譲る会を開催したこともあります。図書館でダブリがあるなど学生に譲る本を溜める棚も用意しました。学生同士が本の交換をするような企画も考えています。

「借りパク」はこの図書館でもありますか?

悲しいことに、ムサビでもあります。何度か連絡しでも返却されない、保護者や保証人へ連絡します。それでも返却されない、と「紛失した」とみなし弁償対象になります。返却のないまま卒業して連絡先がわからなくなってしまうと、もう一度同じ本を買わなければいけません。借りパクは立派な窃盗ですから、大人として最低限のルールは守ってほしいと思います。図書館の本は共有の財産で、みなさんの学費で購入していることをお忘れな

0月x日
資料映像鑑賞会

学生に向けて…

「図書館・イメージライブラリー側から学生へ伝えたいことはありますか?」

図書館やイメージライブラリーへの持ち込み企画の相談に乗ります。何かやりたいことがあれば、気軽にいつでもください。例えば、ビブリアバトルでも読書会でもイメージライブラリーでだったら自分のつくったもの上映会とか。今は直接一所に集まらなくても、オンライン上でもできることも増えていきますから、その中で、学生のアイデアもあれば嬉しいなと思っています。

最後に何か学生に一言どうぞ!

館員へのお便りを募集中です(笑)。私たち館員は、熟考の末に本や映画ソフトを購入し、学生のみさんのために催しや仕掛けを考えています。学生が「良い」と思ってくれると、やはり励みになります。ホワイトボードには創作のための要望はもちろんです。館員への励ましのコメントもお待ちしております。

年7月にできました。学生からの要望があり、メモ書きで映画を紹介する交流が始まっています。イメラでは、スタッフが学生からおすめの映画を聞かれることも多いそうです。世代が違うと見てきたものやその背景も違うので、見てよかった映画は積極的に共有すると良いですね。

「イメージライブラリーは、学生にどんな風に活用してもらいたいですか?」

映画を観て批評会をしたり、大画面で自分の作品をチェックしたりなどに利用してもらいたいと広報しています。学生は今や映画はスマホで観るのが普通。わざわざイメラのブースでソフトを入れて…みたいな形はほとんど廃れていくかもしれません。ここにはサブスクでは観られないものもあります。例えば、学生がつくったものや卒業生が関係しているものです。監督としてだけでなく、役者や美術、脚本など、少しでも卒業生が関わっているものはイメラに入れるように心がけています。それらを観た学生側から自発的に「作家の話が聞きたい」などの企画が出ると思います。また、映像系のインスタレーションをつくらせている学生なども、やりたいことがそのまま実現できるとは限りませんが、まずは何かやりたい、と発案してくれれば。最近の学生の使い方としては、SNSで呼びかけてグループ視聴室で観賞会をしている人たちもいると聞きました。ホラー映画が人気だそう。みんなで「キラー……」って思い切り叫ぶのがいいみたい。「応援鑑賞」も人気のようで、みんなでペンライトを振る

「笑える映画」
視聴会

みんなで見よう!!



「どんな基準で映画を仕入れていますか?」

美大生として必要かどうか、という視点で職員で話し合っています。誰か1人がどうしてもほしくて、ほかの学生もすっかり活用できるかどうか、それが知識として持つべきもののなかなど、いろいろとスタッフは考えています。

例えば映画では、「ゴジラ」のシリーズを描いていますが、そのシリーズから特撮がどう進歩してきたのか、という技術の変遷を学ぶことができます。昔は背中チャックが丸見えだったけど、新しいものでは本当にこういう生き物があるように見える、と進歩が感じられるはず。歴史をちゃんと知ったうえで物づくりをしてもらいたい、という思いを込めて購入しています。

※多摩アカデミックコンソーシアム・国立音楽大学、東京経済大学、東京外国語大学、津田塾大学と武蔵野美術大学の6つの大学が結成する大学協力機構。

すごい

ムサビ生の癒し「ムサ猫」とは？

ねこ部さんに聞いてみた！

ムサビに住む猫を見守るサークル「ねこ部」を訪問！部長の菊田絢巴さん（芸術文化学科2年生）と副部長の日比野彩矢さん（芸術文化学科2年生）にお話を伺いました。ムサ猫の魅力を知り、癒されよう！

取材・文＝海田実来（デザイン情報学科1年）

公式Twitter
@mau_nekobu



ねこ部部長の菊田さん（右）と副部長の日比野さん（左）



もろこし一家の「トリ」。美人で美しい立ち振る舞いで、「姫」の愛称で呼ばれている

TORI

——そもそもムサ猫って？

菊田 ムサビに住み着いている猫たちをムサ猫と呼んでいます。学校公認というわけではなく野良猫なんです。が、みんなに愛されている猫たちです。人慣れしていて撫でられに来られる子もいれば警戒心の強い子もいるので、ムサ猫にとってちょうどいい距離感を心がけながら餌やりや体調管理など健康に過ごせるようにお世話をしています。稀に外から入ってくる子もいます。

——お2人とねこ部の出会い？

菊田 2人ともムサ猫に惹かれてねこ部が気になっていったんですが、当時コロナ禍でねこ部が完全に活動停止している状況を知り、このままだとムサ猫たちが心配だということ、それなら新しくつくろうと2人で立ち上げました。その後Twitterでもとものねこ部の方と繋がれて、ねこ部を引継ぐことができました。今では部員も増えて、助言をもらいながら活動しています。

——どんなムサ猫がいる？

日比野 家族が1世帯ありますね。亡くなってしまったんですけど、「もうこ」っていう白とクリーム色のお父さん猫とお母さん猫（名前はないんですけど、そして三毛猫の三つ子の「ムク」「モフ」「トリ」という家族です。でも、その中のムクはとて人懐っこかったんで、誰かにもわられたとか。なので今はお母さん、モフ、トリの3匹がムサビに住んでいます。トリとモフはお母さんについて回るほどのお母さん子なんですけど、お母さんの方は意外とそうでもなく塩対応なんです。

家族猫として知られる「もろこし一家」



MOROKOSHI

FUKU



いつもとっても仲良しな「ふくさん」(左)と「しめじ」(右)

SHIMEJI

——正門の猫の像とは？

菊田 10年前ムサビに住んでいた「さばお」という猫がモチーフになっています。当時さばおと「うさお」という猫が仲良く守衛室前に居たらしいのができて楽しいです。

——活動のイベントは？

日比野 活動を始めから徐々に猫も慣れてくれて、猫自ら近寄ってきたり話しかけてくれたりすることが増えました。猫たちが自分たちを覚えてくれたりすることが分かってうれしいですね。たまに膝に乗ってきたり爪とぎしたりできます。冬場は猫も暖をとっている

——ムサ猫の魅力とは？

菊田 ムサ猫1匹1匹に個性があって、どこかアートなんです。カメラを向けたときも、自然に決まっています。モデルさんみたいで。ムサビ生と一緒に授業を受けているんですかね（笑）。
日比野 犬も猫も好きなんですけど、思わず猫派になってしまうくらいいいところなんです。みんな優しくかわい子たちなので、その子たちにとって心地いい空間を作っていきたいですね。



CLAIRE

ムサ猫の中でも有名な「クレア」。恋多き猫として知られる。通称「お嬢」

COLUMN

ムサ猫に
出会ったら.....



人懐っこい子もいれば警戒心の強い子もいるムサ猫。あまりぐいぐいと近寄らず、猫が怖がらない距離感で見つめよう。会うたびにみつめ、慣れてきたらムサ猫の方から近寄ってくるかも。警戒し、おびえている猫は、さらに距離をとって遠くから見守ろう。



守衛室前でムサビ生たちを見守る「さばお像」



SABAO



OKAASAN

とってもよく似ている「ひよこたん」と「お母さん」。ちょっと毛色が濃い方がひよこたんだそう。見分けつきますか？



HYOKOTAN

世の中を いろんな 角度から見て 世界を楽しむ



加藤 賢策
LABORATORIES

KENSAKU
KATO

かとう・けんさく
1975年生まれ。株式会社ラ
ボラトリーズ代表取締役。武
蔵野美術大学・横浜国立大
学非常勤講師。アートディ
レクター・デザイナーとしてグラ
フィックデザイン、ブックデザ
イン、WEBデザイン、サイン
デザインなどを手がける。

2000年に武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科を卒業後、大学院に進み、研究室の助手を経て、現在はアートディレクター／デザイナーとして活動されている加藤賢策さん。視覚の非常勤講師をや
りながら、10年ほど前からは、大学の広報媒体「maubeat（マウリーブ）」のデザインも手がけ、今年度は
ムサビのイメージビジュアルも制作しています。人生の大半をムサビで過ごされてきた加藤さんに、
これまでの経験を経て感じたことや、デザイナー人生で大切にしていることなどを伺いました。

——学生の頃はどんな過ごし方をされてい
ましたか？

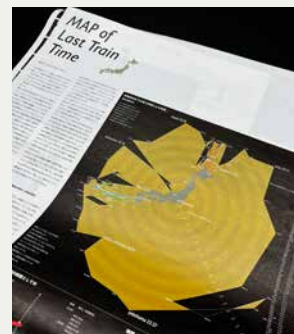
学生の頃は主にプログラミングを使って
デザインを考えていました。当時はジョン
前田さんなど、プログラミングを使ったデ
ザインの考え方が始まった頃でした。そん
な中で、僕は古いアイデアと新しいテクノ
ロジを組み合わせることに興味があった
んです。グラフィックデザイナーの杉浦康
平さんが1960年代に制作した「各地
の所要時間で日本を描いた「時間地図」と
いう作品があって、それと同じテーマで、
プログラミングを用いて動く地図をつくっ
ていました。でも題材に杉浦康平さんを選

んでいただけあって印刷にも興味があった
ので、印刷物の制作もやっていました。
いろんな偶然からムサビ外の人と交流す
ることも多くて、早稲田大学の友達と雑誌
をつくったりとか。だから今でもデザイナー
よりも編集者とか学者の知り合いの方が多
いかもしれません。デザインって意外と同
業者で集まっても仕事にならないので、課
外活動で色んな分野の友人が増えました。
異分野の人と仕事をする際、デザインがで
きるとするのは一つの強みだし重宝されま
す。やっぱり何か軸足があると自分でも動
きやすいし、理解もされやすい。デザイン
が好きで知識があって、そういうのを軸足

にして活動の幅を広げると色んな人とな
がれるので、何か自分の軸となるものがあ
るといいと思います。僕の場合は、デザイ
ンじゃなかったらこんなになんか
分野の人とつながれなかったかも
しれません。

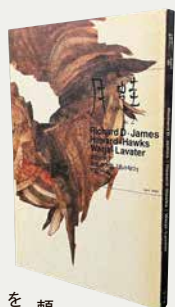
——ムサビに入ってよかったなと
思うことはありますか？

美大に入って、世の中をいろん
な角度から見て世界を楽しむこと
を学んだ気がします。表現技術そ
のものというよりは、デザインや
アートを通じたものの見方です。



修士制作で作った『終電地図』。「今自分でプ
ログラミングをすることはないけど、デザイン
の考え方にかなり役立っていると思います」

雑誌『月蛙』（1999年、子供
社）。加藤さんが大学院生の
ときに友人たちと制作した雑
誌。デザインで参加。ここで出
会った人とのつながりが今の
仕事にも役立っているそうだ。



大学院を出た後もそうで
すね。大学院を出た後は何
となく教授に助手を勧められ
て、助手になった後も仕事の依
頼があったから、何となくそれ
をそのままやっていくと思って
起業しました。最初はチラシ一枚の
デザインから始めて、仕事は何をやっ
てもおもしろいと思っていっぱい仕事を受け
ていたら、気づけば今のような規模になっ
ていたという感じ。だからあまりターニン
グポイントがないんです。流されるままお
もしろいなと思うことをやっていたら、気
づいたらこんな感じになっていました。
ただ、何となくやってきたとはいえ、今
までのことを全部活かしているの、あれ
やっとなればよかったな、やらなければよ
かったなと考えたことはないし、無駄にな
ることってないから、とにかくやっことを
全部活かすしかないのだと思います。

「顔に見えるか見えない
か、ギリギリのところをね
らって構成してます」

やっぱり楽しいと
思うことしかできないし、
結局はそれをひたすら
やるしかない

もいからとにかく斜めに見たりひっくり
返したり、色んな見方をして、自分の感覚
で世界を楽しむ。それで社会に出たとき
にすい武器になるんです。僕もデザイナー
として色んな人と仕事をしましたが、そ
ういう発想はおもしろがってもらえますし
役に立っていると感じています。まさにこの
ビジュアルは、美大に入ってからだったな、と
いうほどの思いが端的に表れている（笑）。
あとは、同じような興味を持った人たちが
大学という一つの場所にいるっていうこと
もすごく貴重なことだと思えますね。
——就職が決まった後に大学院に進むこと
を決めたそうですが、その間にはどういっ
た心境の変化がありましたか？

——最後に、大学時代にしておくべきこと
があれば、現役ムサビ生にアドバイスをお
願いします。

あんまり変に先読みして「これをやっ
ておくべきだ」と思ってしまう方がいん
じゃないかな。やっぱり楽しいと思っこと
しかできないし、結局はそれをひたすらや
るしかないのではないかと思います。
人それぞれ向き不向きがあると思うの
で、簡単にはいえないのですが、あんまり
自分をコントロールしすぎず偶然の出会い
をしっかり受け止めて、真実に楽しいこと
に取り組んでください。



加藤さんが手がけた、2022年度のムサビのイメージポスター「感
覚おぼけ」。「自分の感覚を拡張して世界をいろんな方法で見ること
ができる力。それは美大で得られる知性のひとつだと思います。
はたから見ると奇妙に映るときもありますが、それでいいです」

WEB版『mauleaf』

キャンパスでのできごとや展覧会情報も。
WEBで独自のコンテンツを発信中！

紙版『mauleaf』の創刊10年の節目である2020年7月にスタートしたWEB版『mauleaf』。ムサビ生が編集部員をつとめ、クリエイターへのインタビューやキャンパスでのできごと、展覧会情報など、ムサビ生にシェアしたい情報を発信しています。「あの施設、実はめちゃくちゃ使える」「変わった活動をしている学生がいるらしい」「この展覧会は見るべき!」……出発点になるのは、編集部員それぞれの個人的な目線。大きなニュースから小ネタまで、いろんな話題が集まっているので、ぜひご覧ください。ご意見・ご感想もお待ちしています。

▶ <https://www.mauleaf.jp/>

本誌企画の情報求ム!!

特集

特集で取り上げてほしいテーマを募集しています。今号の「キャンパス」のほか、過去には「アルバイト」「アニメ」「ファッション」「恋愛」「夏休み」などの特集がありました。「ムサビのこんなことが知りたい!」「こういうことを調査してみたらおもしろそう」など、ジャンルやスケールは問いません。あなたのアイデアをお待ちしています！

気になるあの子

現役ムサビ生の「気になるあの子」をインタビュー形式で紹介します。すごい、変、怪しい、不思議、素敵……、どんな「気になる」でもOK! 取材をしてほしいムサビ生の情報を待っています。自薦・他薦は問いません。

すべて宛先は、mauleaf@d-land.jpまで。必ず氏名・学科・学年・連絡先を明記してください。

あとがき

まずは取材にご協力くださった方、ありがとうございました!ゴミストと卒業生訪問の取材を担当したので計4名の方にお話を伺ったのですが、制作に対する考え方が様々で聞いてとてもおもしろかったし勉強になりました。今回の制作で私自身もキャンパスに新しい発見があったので卒業までにいろいろ試してみようと思います!〈澤口〉

アンケートにご協力してくださった方々ありがとうございました!ムサビならではのおもしろい回答が集まり編集していてとても楽しかったです。昨年は私の学科はほぼすべての授業がオンラインで大学に来ることがなかったため、学校や学生のことを直接知れる良い機会にもなりました。〈箱崎〉

「気になるあの子」のページを担当いたしました!取材にご協力いただいた清掃員のみなさま、ありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。鷹の台キャンパスが持っている魅力の引き出しを学生ならではの視点からお伝えできる媒体として、これを手にとった方が改めてムサビに愛着を感じていただけたら幸いです。〈奥田〉

インタビューなど今までしたことないことに挑戦できる機会だったと思います。ほぼ毎日ムサビを使っているけれど、今回の編集に参加したことで新しくムサビの持ついろいろな側面を覗けたし、ムサビに愛着を持っていたんだなとしみじみ感じました。〈海田〉

企画や取材、編集など初めて経験することばかりでしたが、自分の成長を感じられる良い経験となりました。取材や編集に協力してくださったみなさま、本当にありがとうございました。mauleafを読んでもくださった方に、少しでも楽しんでもらえたら嬉しいです。〈郡司〉

前号の「ムサビ生とアルバイト」を読んでこれを学生がつくっているのか!自分もつくってみたいなという好奇心と自分のスキルアップのためにも今回の特集に参加させていただきました。結果、特集のテーマ決めから取材編集まで、アドバイスを頂きながら学生主体で進めていき、とてもいい経験になったと感じています。この冊子を手にとった読者の人々に楽しく読んでいただければいいなと思います!〈大川〉

今回30号の制作に参加し、ムサビの知らなかった一面をたくさん見つけることができました。普段は自分の学科の建物にしか行かないですが、少し行動範囲を広げてみると他の人のキャンパスの使い方が見えたり、私たちの学生生活を支えてくださっている方々の様子が見えてきたり、視野が広がりました。ありがとうございました。〈松本〉

ムサビのエッセンシャル
ワーカーの日常を取材、
そこには学生への愛と
コミュニケーションがあった。



袋の中のゴミをまとめる小川さんと麻生さん。

—— 普段の作業内容を教えていただけますか。
山本さん 清掃全般です。掃いたり拭いたり拾ったり。
富澤さん ゴミ集めや教室の掃除をして、あとはトイレ掃除、外掃きです。

—— 事前アンケートで、印象的だった業務について、「ゴミ集積場の廃棄してあった自転車を取った学生が警察の取り調べ・現場検証を受けた事」とご回答いただいているのですが、詳しくお伺いしてもいいですか。
小川さん 大学では、廃材置き場から必要なものを学生が持って行って再利用して良いことになっていますが、あるときその鉄くずのなかに自転車があったらうね、自転車は人に譲るときに、本来は譲渡証明書というのを書く必要があるんです。で、持っていった学生がその自転車で乗っていたときにお巡りさんに声をかけられて「あなたの自転車じゃない」と分かったと、学生はムサビのゴミ集積場から持ってきたと説明する。被害届が出ている自転車とかだとちょっと署まで来てください」となる。そういうことがあった。

—— mauleaf30号の特集が「ムサビキャンパス開拓」なのですが、キャンパスのなかでお気に入りの場所がありますか。
山本さん 12号館の8階。360°ではないけど、270°の展望が開けるので。北側も南側も。
吉森さん 東も。
武田さん スカイツリーはほとんど見える。朝早い冬場だと東京タワーもわかるの。でも本当に暗くなきゃわからないの。ちっちゃくって。スカイツリーは夏場でも見える。

—— 学生に一言ございましたら、お願いいたします!
吉森さん これからの時期だと思うんだけど、作品なのかゴミなのかっていうのが、ゴミ箱の横に置かれちゃって、こちらはゴミだと思って…というのがあったらね。
武田さん 上に置かれるとどうほとんどゴミにされちゃうけど、本当はた置いていただけっていう。で、あとで探しに行っても出てこないことがあるから、「私の作品捨てられちゃったんですけど、出でませんか」と来られてももう…。
山本さん 画材のこともありましたね。中国でしか売ってない絵の具だったらしいんだけど、それを「どこに置いておいたの」と聞くと、「ゴミ箱の横です」。

—— これまでに変わった廃棄物などはありましたか。
武田さん 使えるものから使えないものまで…。年度末になると一般家庭の棚とか小平市のゴミ袋を捨てている人もいて、非常に困っています。
山本さん あとね、赤ちゃんの紙おむつ。使用済み。

—— ムサビ生の印象はいかがですか。
武田さん 美大生ってもっとも尖っているというか、もっとゲゲゲしているのかと思ったら、意外と普通。

気になるあの子



上の列 | 左上から、山本さん、高橋さん、小川さん
下の列 | 右下から、吉森さん、山田さん、富澤さん、武田さん

ムサビの環境が美しく清潔に保たれているのは、清掃員さんの働きがあってこそ。mauleaf30号の「気になるあの子」では、見かけない日はないけれど、詳しくは知らない清掃員さんにフォーカスし、エッセンシャルワーカーの視点から見たムサビを取材しました。あらかじめ質問に回答していただいた資料を元に、作業後の控室でお時間をいただきました。

取材・文＝奥田成美（油絵学科4年）

—— 意外と普通（笑）。
富澤さん たまにすごい人いる。
武田さん 頭レッドみたいな。

—— 清掃員さんの控室や集積場は喫煙所の隣だから、色んな学生が来るのかな。と思いました。
山本さん 色んな学生が来ますけど、「ちょっとこれ危ないんじゃないかな」って学生も話してみますとすごいかわいいのがいる。
一同 笑

—— mauleaf30号の特集が「ムサビキャンパス開拓」なのですが、キャンパスのなかでお気に入りの場所がありますか。
山本さん 12号館の8階。360°ではないけど、270°の展望が開けるので。北側も南側も。
吉森さん 東も。
武田さん スカイツリーはほとんど見える。朝早い冬場だと東京タワーもわかるの。でも本当に暗くなきゃわからないの。ちっちゃくって。スカイツリーは夏場でも見える。

—— 学生に一言ございましたら、お願いいたします!
吉森さん これからの時期だと思うんだけど、作品なのかゴミなのかっていうのが、ゴミ箱の横に置かれちゃって、こちらはゴミだと思って…というのがあったらね。
武田さん 上に置かれるとどうほとんどゴミにされちゃうけど、本当はた置いていただけっていう。で、あとで探しに行っても出てこないことがあるから、「私の作品捨てられちゃったんですけど、出でませんか」と来られてももう…。
山本さん 画材のこともありましたね。中国でしか売ってない絵の具だったらしいんだけど、それを「どこに置いておいたの」と聞くと、「ゴミ箱の横です」。

—— ああ、捨てられちゃう。
山本さん 新品の箱に入っていればまだしも、使い古されているようなやつだったら完全にゴミだと思ってしまふので、紛らわしいところに置かないようにしてほしい。

—— みんなに伝えておきます。私もうっかり置いてしまいうです。
山本さん あと、私が失敗したのは、新聞紙でつくった作品があったんですよ。それがゴミ箱の横にあった。場所は2号館なんだけど、2号館は雨風が入ってくるから、濡れちゃいけないと思ってその学生はビニールを掛けておいたんでしょね。そのビニールが“ゴミ袋”って書いてある半透明のビニールで…。
一同 あああ～。
山本さん 我々は“ゴミ袋”って書いてあるから、ゴミだと思わないですか。だから、「作品です」とか、「持って行かないでください」とか、そういうことを一言書いておいてほしいです。

田中誠治像の前を掃き掃除する小林さん。



清掃員さんは見た

ムサビ語辞典

【イメラ】
「イメジライブラリー」の略。昔は「イメライ」と略して、世代によって略称が違うらしい。

【鳥骨鶏だなお前】

鳥小屋にいる1匹の鳥骨鶏みたいに、どんな相手だろうと容赦なく思ったことをズバツと言う人だったり、教授だろうと講評のときに怯えずガツガツ質問するようなアグレッシブな姿勢を見せる人がいる場合に使う。

【エミユウ】

4号館付近にある「エミユウ」でパンを買うときに使われる。ちなみにおすすめはカレーパングランプリ2020で金賞を受賞した牛すじカレーパン!!

【硬^{かた}ヨギボー・もち・マシユマロ】

ゼロスぺにある有機的な形のベンチのことを指す。

【共コン】

1号館3階にある「共用コンピュータ室」の略。無料で印刷させてもらえる。使いたい紙を持っていて頼むとそれにも印刷可能。

【消しゴム・かまぼこ】

頭の形が丸いことから12号館のことを指す。

【獣道】
ムサビに向かう際の通学路である玉川上水緑道のこと。

【限界美大生】

極限状態まで課題や授業に追い込まれている学生たち全員を指す。特に学期末はみんなこの状態である。

【ゴミスト】

世界堂やセブンイレブンの近くに存在する「ゴミストックヤード（ゴミ捨て場）」のこと。和紙や木製パネルなど思わぬ素材との出会いがあるため、制作用の素材が欲しいときに使われることが多々ある。

【根性焼き入れてんだ〜!】

（事後的に）グルーガンで火傷しちゃったときにいう。

【死デロン】

課題が終わらず死にかけてデロンとしている状態のこと（視覚伝達デザイン論―視テ論―死デロン）。

【ゼロスぺで寝るわ】

眠いとき、9号館の「ゼロスぺース」で安眠しようと思ったときに使う。

【鷹〇（〇は数字が入る）】
「〇時に鷹の台駅に着くよ」という意味。使用例・鷹9だけと一緒に行動する人いる?

【鳥小屋バイトよりキツイ】

鳥小屋掃除のバイトよりキツイこと。

【フリマ】

2号館1階の「GFA」にて毎年開催されるマーケット。無料で売買ができることから「フリマ」と呼ばれている。

【macbook置いてくの?】

割られるから持っていく密かな注意。

【陽キャ食堂／陰キャ食堂】

世界堂上の食堂のこと。／12号館地下の食堂のこと。地下の食堂のおばちゃん方がいつもエネルギー満ち。

【〇〇〇〇〇〇!】

ラップバトルMCが使う「か〜ま〜せ〜!」のイントネーションで3文字の命令口調の言葉を発する。

ムサビをもっと快適に

こまちょ

豆知識

キャンパスライフをより快適にする具体的な方法はネットで調べてもあまり出てこないもの。実際にムサビに通う学生のリアルな声を集めました。



5A号館でスマホを開くと位置情報は朝鮮大学校になる。

カレーは世界堂上の食堂のほうが辛口。

1号館付近のWi-Fiが一番強い。

夏にゴミストに行くとき必ず蚊に刺される。

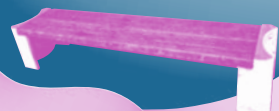
図書館のトイレが綺麗で使いやすいらしい。

2号館下の喫煙所で初めて会う他学科の学生や教授と話して仲良くなる。



ゼロスぺからムサビの正門にある国分寺駅行きのバス停までダッシュで1分。

9号館の外にあるベンチは日陰であり人がいないからぼっち飯に最適。



ゼロスぺは寝やすい。



共用コンピュータ室のプリンターの紙は白色がすごく綺麗。最高。

昼のセブンは後戻りできない行列。

10号館はお風呂みたいで居心地いいよ!

